

予定では今ごろは医療ボランティアとしてベトナムのダナン市にいるはずでした。このボランティアは私の大先輩が20年以上前に始められたものです。

当時はベトナム全土で形成外科医が数十名しかおらず、やけどや交通事故による傷痕や、口唇や耳の変形の手術をしてほしいとの要望に応じて始まりました。毎年2、3回ダナン病院へ行って手術をするのですが、手術数が多いため、何人かでチームを組んで1週間ほど滞在します。

私が最初に参加したのは17年前になります。ほぼ毎年参加していますが、ダナンも大

ベトナムでの奉仕

きく発展しました。

ダナンはベトナム第3の大都市です。空港もあるので、17年前は市内に信号が二つしかなく、他の交差点では人が交通整理をしていました。ただ、当時は9割以上がバイクか自転車。自動車は本

当に少なかったです。それでも交通事故が多く、その治療のために、形成外科の知識が必要でした。

ダナン病院のベッド数は2千以上あるのですが、患者さんが多いため、驚いたことに

一筆



熊本赤十字病院
形成外科部長

黒川 正人

黒川 正人

一つのベッドに赤の他人が2人で寝ていました。当時は手術中に停電することもあり、懐中電灯で手元を照らしてもらって手術をしたこともあり

ました。最初は日本の医療環境との差に驚いていましたが、病院の人は皆さん勤勉で親切。私たちが歓迎してくれます。麻酔科の部長は毎年、麻酔をかけながら、日本から贈られた麻酔器に貼ってある日章旗を指し「日本とベトナムは友人だ」と言ってくれます。